

1 単元名 安城市を魅力的な街にするために ～身近な地域の調査～ (8/8)

2 単元目標

- ・自分たちが住む地域について関心をもち、地域の魅力を高めるために改善すべき安城市の課題についてすすんで話し合うことができる。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・自分たちが住む地域の人口減少を食い止めるために、自分の意見を発表したり、他の生徒の意見を参考にしたりしながら取り組むべき課題について考えることができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- ・自分たちが住む地域の魅力を高めるため、資料を収集・選択することができる。
(資料活用の技能)
- ・自分たちが住む地域の課題と地域の取り組みについて理解することができる。
(社会的事象についての知識・理解)

3 指導観

(1) 生徒観

本学級には、明るく活発な生徒や静かだが自分の意見をしっかりともてる生徒など、さまざまな生徒がいる。そのため、自分の思いを伝えることはできるが、他者の意見を受け入れることができないことがある。

これまで、日本の諸地域の学習で日本の西側の地方について学習してきた。九州地方の学習では、全国の土砂災害発生件数の資料と自然地形を結び付けて考えることができた。水俣病について学習した際は、映像資料を基に、ペア学習で活発な意見交流をすることができた。中国・四国地方の学習では、中国・四国地方の人口分布の資料や人口の変化のグラフから数値を読み取ることができた。

一方で、他地域の課題を自分の生活と結びつけて捉えられない様子が見られた。また、資料から情報を読み取ることはできていても、読み取った情報を基に疑問をもち、資料からその地域の特色まで読み取ることができない生徒もいた。

そこで、課題を自分の生活と結びつけ、資料から読み取ったことを基に自分なりの意見をもち、発信することができる生徒、他者の意見を聴いて意見を再構築できる生徒を育てたいと考えた。

(2) 単元観

本単元は学習指導要領に示された「C 日本の様々な地域」の中の「(4)地域の在り方」の内容である。安城市について課題を見い出し、解決に向けて学習する活動を通して、主体的に社会に関わろうとする態度を養うことができると考えられる。

まず、安城市の課題を捉えるために安城市の人口に着目する。中心資料は安城市が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」のデータである。この安城市の戦略は、平成26年に国が地方の急速な少子高齢化や人口減少に歯止めをかけ、東京圏への人口集中を是正するため施行した「まち・ひと・しごと創生法」に基づき策定されたものである。2060年の人口19万人を目標に、2014年度から2019年度における安城

市のまちづくりや雇用の創出、人口の維持のための5か年の目標や具体的な政策がまとめられている。

人口に着目するために用いるグラフは二つある。一つは現在の人口変動の傾向をもとに予測される2060年の人口が17万1千人となるものと、もう一つは安城市が目標とする2060年の人口が19万人になるものである。このグラフを基に、どちらが安城市にとって望ましい人口予測か理由とともに考える。この際、多くの生徒は安城市が目標とするグラフを選ぶことが予想される。そこで、なぜ人口が少なくなると安城市に問題があるのか、その理由を考える。安城市に活気がなくなる、商店街が寂れるといった意見が生徒から出ると予想されるが、税収に着目させることで、人口が少なくなることが安城市にとってマイナスな意味合いをもつことに気付かせたい。

次に、人口が減少する理由について考える。寿命を迎えて亡くなる自然減と安城市から他の市に転出する場合を生徒が予想すると考えられる。そこで、2060年の安城市の人口ピラミッドを作成することで、2060年に高齢者の割合が高くなり、自然減が増えることに生徒は気付くだろう。将来の安城市が人口19万人の都市になるように、現在の安城市がどの年齢層の人口割合を高めるべきか、そのために安城市はどのように発展するべきか追究する。

安城市の目標を達成するために、「子どもを増やすため、子育てしやすい街にすればよい。」「高齢になった両親の生活を心配しなくてすむように、高齢者が住みやすい街になればよい。」「働く若者を増やすため、工場を新たにできればよい。」などの意見が生徒から出ると予想される。出てきた意見を基にそれぞれの生徒が調べたいテーマを決め、家族へのインタビューやアンケートなどを通して、対象となる人々の要望を把握する。次に、市役所への聞き取りや図書館の蔵書、図書館司書に依頼して集まった資料を通して安城市の現状を調べる。その際、出典を明記させ、信頼性の高い情報を用いるようにする。調べた情報を地図やグラフ、地形図を用いて、分かりやすくまとめるよう促す。

まとめたものを発表し、質問を受け付けた上で、安城市の人口が2060年に19万人になるために優先して取り組むべき課題を話し合う。安城市の未来について興味をもち、安城市の課題に向き合い、これからの安城市を魅力あふれる都市に発展させようと思える生徒の姿を期待する。

4 社会参画を目指すための手立て

(1) 身近な安城市をテーマとする探求活動

安城市の地域の課題を捉え、考察する活動を行う。本校の生徒にとって、安城市は身近な市町村だが、人口減少という視点から安城市の将来について考えたことがある生徒は少ないと思われる。そこで、人口の変化という視点から安城市の将来を捉え、今優先して解決すべき課題を考察することで、生徒が安城市に改めて興味をもてるようにする。

(2) 図書館司書の活用

調べ学習を行う際には、図書館司書に選んでもらった図書を積極的に活用するようにする。インターネットを利用することも考えられるが、資料の量が多く効率よく調べる事が難しいと思われる。また、安城市の市政に関連した蔵書が本校には少ない。そこで、図書館司書を活用し、安城市の市政に関連した図書を学級に設置する事で、生徒が情報を必要とするときに手に取って調べられるようにする。

6 本時の指導（8 / 8）

(1) 本時の目標

- ・安城市の課題を見つけ、改善すべき課題をすすんで考えることができる。
(社会的な事象への関心・意欲・態度)
- ・2060年に向けて調べたことを基に、自分なりの意見を持ち表現することができる。
(社会的な思考・判断・表現)

(2) 指導過程

学 習 活 動	教 師 の 支 援
1 学習課題を確認する。	
<p>安城市の魅力高め、2060年の人口を19万人にするため、今優先して取り組むべき課題を決めよう。</p>	
<p>2 調査のまとめを基に、安城市が優先して取り組むべき課題を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代を増やすことが人口を増やすために最優先にすべきことだと思う。 ・調べたアンケートによると、住む場所を選ぶ時に、両親が近くに住んでいるか考える人がいるみたいだよ。 ・それなら、高齢の人にとって住みやすい街にすれば、若い人が安城市に住んでくれるはずだよ。 ・お兄さんは大学生だけど、就きたい仕事は安城市にはないから他県で就職するって言ってたよ。働く場所は大切だと思う。 ・工場を増やすと騒音で住みにくい街になってしまうと思う。子育て世代を増やしたほうがいいのではないかな。 ・でも、働く場所がなければ、人は集まらないよ。工場を増やし、働く世代を増やすことを優先すべきだと思う。 ・それでは、現在の人口ピラミッドからわかるように女性が増えないから、子供の数が増えないよ。難しいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの生徒と相談し、自分の意見に自信がもてるように、優先すべき課題の似た生徒が近くに座るよう座席を指定する。 ・発言に根拠をもたせるため、参考にした資料の提示を促す。 ・話し合いを活性化させるために、調べた内容を座席表にまとめ、意図的に指名する。 ・話し合いに新たな視点を加えるために、課題を解決するためにどのような解決策があるか、考えるよう促す。
<p>3 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートから、様々な立場の人の意見を知ることができた。全ての意見を取り入れることは難しいが、職場を増やし、働く世代を増やすことを優先すべきだと思う。 ・安城市が魅力的な街になるように考え続けたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安城市の課題への理解を深めるために、意見の変容がわかる振り返りを書いた生徒を指名し、発表させる。

(3) 評価

- ・安城市の課題を見つけ、改善すべき課題をすすんで考えることができたか、授業中の様子と振り返りから判断する。
- ・2060年に向けて調べたことを基に、自分なりの意見を持ち、表現することができたか、授業中の様子と振り返りから判断する。